

★米民主党予備選で民主社会主義者たちが健闘

2016年の大統領選挙でサンダース旋風をおこした左派、リベラルの草の根運動が秋の中間選挙にむけた民主党の予備選挙で大健闘し勝利している。とりわけ社会主義を公然とかかげた「アメリカ民主社会主義者（DSA）」の健闘が注目されている。

[ニューヨーク 27日 ロイター]- 26日に全米各地で行われた中間選挙の予備選挙で、ニューヨークの選挙区で下院民主党ナンバー4のジョセフ・クロリー下院議員が、左派の新人、アレクサンドリア・オカシオコルテス氏（28）に敗れるという番狂わせがあった。クロリー氏は、11期目を目指していた現職下院議員で、この14年間、党内で対抗馬がいなかった。同氏に勝利したオカシオコルテス氏は、2016年の米大統領選で民主党候補指名を争ったバーニー・サンダース上院議員の選挙運動に関わった。民主党候補の当選がほぼ確実視されている選挙区で、高齢者向けの公的医療保険（メディケア）を全国民に提供すべき、などと訴え、リベラルなメッセージを掲げて選挙戦を戦った。



★民主社会主義者（DSA）のビジョンで勝利

6/27 「ザ・ネーション」誌 ジャック・ニコラス記者

敗れたジョー・クロリー議員は10期連続当選、民主党のナンバー4で次期、院内総務と目されていた。オカシオコルテス氏が57・5対42・5で勝利。ペロシ体制の民主党幹部を震撼させたとNYTが書いたように、9月の知事選挙予備選でもクオモ支持を表明したクロウイー候が民主党幹部たちの間では圧倒的な支持のはずだった。草の根運動「ムーブ・オン」の幹部は「ワシントンの民主党指導層への警告だ。若く、多様性に富んだ進歩的な抵抗運動は、権力に刷り込まれるのを待っていない。変化を求めるあらゆる方面からの人々が指導権をにぎり、民主党の未来のあるべき姿を示している」と語る。実際、指導部は草の根で起きている変化についていけない。オカシ

オコルテスはサンダース選挙運動に参加し、全国一律の健康保険制度や移民税関執行局（ICE）の廃止、住宅の権利や刑事裁判制度の改革をうったえた。そして自ら民主的社会主義者であることを誇りにして示した、そのイデオロギーに弁解がましいことをいわない。「地域にとって大事な問題での会合には必ずDSAがいた。DSAはまさに地域の延長だ」と語る。そして社会主義のビジョンが21世紀のアメリカにどうつくられかについても詳細に語る。彼女を押しあげたのは、DSAだけでなく、サンダース旋風を起こした「正義民主党」、「われらの革命」、「ムーブ・オン」など、草の根の運動組織が支援した。サンダースは彼女の勝利を祝して「選挙区の民主党マシン全体を相手にして戦い勝利した。彼女のたたかいは進歩的な草の根政治の底力をみせてくれた」と述べた。DSA全国員会のクリスチャン・バウ氏も同様で、「きょうの勝利は米国が政治革命のまっただ中であることを示した。有権者は自分の代表者たちに空約束や財力以上のものを求めている。今後の選挙も同じことがおきるだろう」と語る。

★新世紀世代の社会主義者がやってきた

6/30 NYT ミシェル・ゴールドバーグ記者

5月、ペンシルバニア州議会選挙に出馬する3人の若い進歩的女性たちはみな「アメリカ民主社会主義者」（DSA）の推薦で、予備選挙で決定的な勝利をおさめ、エリート層が押す男性候補を打ち破った。サマー・リー(30)とサラ・イナモラート(32)は同州の名門出身の現職候補を負かした。エリザベス・フィードラーは、第2児を出産して3か月、選挙事務所の中に保育所をつくって母親たちの支援をえた。法学部出身だが自身も20万ドルの学生ローンをかかえている。選挙戦では子育てと教育負担の軽減を率直にうたえて支持をひろげた。イナモラートは父親が鎮痛剤の中毒になって家族が中産階級から没落した。草の根の市民を再生させた彼女たちの選挙戦は全国でおきている。暗い時代の唯一の明るい材料だ。オカシオコルテス女史の属する米民主社会主義者は、米国最大の社会主義組織である。（後略）

米国民民主社会主義者（DSA）（ウィキペディアから）米国の社会民主主義や民主社会主義者その他の左派グループや労組活動家が参加して1980年代に結成された政治団体。社会主義インターに加盟。選挙では民主党のリベラル左派を支援してきた。大統領選挙ではオバマ支持。民主社会主義者を名乗るバーニー・サンダース氏の選挙を支援。各州や市の議会、挙に候補を擁立、推薦して活動。2016年の大統領選挙ではバーニー・サンダース候補を支持してたたかい、本選挙ではヒラリー・クリントンを支持しなかった。2017年の各種選挙では、13州で15の各種選挙に勝利し、地方議員の数を30に増やした。2018年の中間選挙をむかえ、連邦議会に推薦議員を送り込むこと

をめざして予備選挙への候補擁立と推薦をおこなった。サンダース候補の支援運動などで支持をふやし加盟員が拡大。2017年に30000人以上、2018年7月には45000人になったと伝えられている。

★米民主党のメリーランド州知事予備選でNAACP議長が勝利



6/29に行われた民主党予備選。勝利したベン・ジェラス氏はジャーナリストから人権団体（アムネスティ）、若くして米国の代表的な公民権運動団体である全米黒人地位向上協会（NAACP）の議長になった。16年の大統領選挙で、サンダース候補を応援した。今度の予備選挙でも一律健康保険や大学授業料の無料化など同じ政策を訴えた。教員や看護師組合から強い支持をうけて。（6/30NYT）

★6/25（JB PRESS）民主党下院予備選、女候補が男性蹴散らす

秋の米中間選挙に向けて行われている民主党予備選で「異変」が起きている。6月中旬、オハイオ、インディアナ、ノースカロライナなどの同党下院予備選では65選挙区で男女候補が競い合った。その結果、45選挙区で女性候補が勝利したのだ。共和党の過半数割れに追い込もうとする民主党にとって女性候補がどれだけ共和党候補を「駆逐」できるかが重要なカギを握りそうだ。

長年、「ブランド・ペアレントフッド（妊娠調節促進協議会）」会長として女性票の動向を定点観測してきたセシル・リチャード氏は、この「異変」についてこう分析している。「女性は有権者、選挙運動活動家、そして今や公職を狙う候補者として全米で最もパワフルな政治勢力になってきた」「特に民主党内ではそれが顕著だ。白人男性候補では共和党には勝てないという女性たちの女の勘がこうした動きを後押ししている」

現在米議会上下両院議員 635 人中、女性議員は上院 22 人、下院 83 人で全体の 20% 未満。「秋の中間選挙ではこの勢力図が大幅に変化する可能性大」との見方が選挙予測機関の間では広がっている。こうした傾向を反映して、2020 年の大統領選候補の下馬評には、すでに 4 人の女性の名前が浮上している。民主党大統領候補として「本命視」されているエリザベス・ウォーレン上院議員（マサチューセッツ州選出）のほか、クリスティン・ジリブランド（ニューヨーク州選出）、カマラ・ハリス（カリフォルニア州選出）、エミー・クロバチャー（ミネソタ州選出）各上院議員だ。

ジョージア州、女性・黒人・若者連合 VS 白人中高年層一騎討ち

前述のリチャード氏が指摘した「女性の波」は各州の知事選、州議会選にも押し寄せている。6 月 22 日南部ジョージア州で行われた民主党予備選では超急進派の黒人女性候補、ステイシー・エイブラムズ同州下院議員（44）が白人女性候補（同じくリベラル派）を制して当選した。当選の原動力となったのは急増する黒人やラティーノを中心としてマイノリティ（非白人）票と人種を超えたミレニウム世代の票とされる。その背景には、「米大統領史上でもまれにみる女性蔑視、人種差別を標榜するドナルド・トランプ大統領の存在」（地元紙編集主幹）があるという。「トランプ政権の悪政をストップさせるために立ち上がった民主党支持の白人リベラル派女性たちが、学識経験で申し分のないこの黒人女性を押し上げている」

エイブラムズ氏は、ミシシッピ州生まれ。少女時代、牧師の両親とともにジョージア州に移住。名門スペルマン大学を卒業後、テキサス大学（オースチン校）大学院を経て、エール大法科大学院で法学博士号を取得。税務弁護士として働いたのちジョージア州下院選にアルバーニー市（人口 7 万 7000 人、人口の 3 分の 2 は黒人）から立候補して当選、黒人最優先を旗頭に実績を上げ下院院内総務にのし上がった。（後略）